



海の安全管理学

－操船リスクアナリシス・予防安全の科学的技法－

井上 欣三著

成山堂書店 2008年10月発行

著者からのひとこと

海の世界の安全は「事故が起こってからの後追い対策」から「事故を起こさないための予防安全」に導くことが第一と考えてきました。近年になって、それを実現するための手法と技法を

体系的に学べるテキストの出版を促す声に励まされ、このたび拙著「海の安全管理学」を成山堂書店より出版することになりました。本書は、単に技術解説書としてだけでなく海事社会の変革の中で海技者のキャリアパスを考える指針書としても役立つものになっており、いわば文理融合型の筋書きで構成している点が特徴です。一人でも多くの方にご一読頂きご批評頂ければ幸いです。

海の安全管理学 - 操船リスクアナリシス・予防安全の科学的技法

海の世界を予防安全に導くために必要な『管理（マネジメント）』の科学的手順と技法を解説。海の社

井上欣三著 成山堂書店（2008年9月末）出版2,520円 発売中

本書の内容

本書は、読者に今海事社会で何が起っているかを知ってもらい、これからの海技者には何ができ・何

本書の特徴

- 予防安全の実践に必要な科学的手順と技法を学ぶ人たちへの教科書として、また、これからの海の社
- 管理（マネジメント）の意味、管理（マネジメント）の哲学、管理（マネジメント）の本質を、海の
- 操船者が事故を起こさないために必要な知識、技術に関する記述は、操船者のための実務マニュアル

新刊案内

成山堂書店 刊

海の安全管理学

—操船リスクアナリシス・予防安全の科学的技法—

神戸大学大学院海事科学研究科 教授

井上 欣三著



A5判・154頁・定価2,520円(5%税込)・発送費390円

海の世界を予防安全に導くために必要な「管理
(マネジメント)」の科学的手順と技法を解説。
海の社会の安全を支える人々への指針書。

発行にあたって

国際海事大学連合(IAMU)の設立理念には「これからの海事系大学の卒業生には船の上で船を動かすことだけの職責を社会は求めている。これからは海上を離れた後のセカンドキャリアとして、陸上から海運企業を中心とする海事関連産業を支える活躍が期待されている」旨が基調となっている。すなわち、片方の翼に海上での船舶運航業務に従事できる能力(先進的な船舶運航技術)を、他方の翼に陸上での安全管理業務に従事できる能力(科学的な安全管理技術)を身につけたボスウイングス能力を備えた新時代の技術者として活躍することを、社会は期待している。このようなボスウイングス能力を備えた人材は、もはや単に「船員」と呼ぶのではなく「海技者」と呼び分けるのがふさわしい。

海上事故の絶滅、環境保全に向けた対策は、本来事故発生を未然に防ぐ予防安全に意識を向けなければならない。海の世界に安心と安全をもたらすものは、古来から船を用いて海を交易の道として使ってきた海運に従事する者、そして海運の目的を達成するために船を操縦してきた者こそが「予防安全の担い手」とならなければならない。その意味からも、次世代の海技者には予防安全の意義を理解し、そして、その実践を通じて大きな視野から海の世界の安全を考えることのできる管理者として活躍することが期待されている。

本書は、海を舞台にした人間活動を安全な状態で行えるように関連する事象や仕組みをどのように「管理」するか、そのプロセスの具体的な方法論を解説している。予防安全の実践に必要な科学的手順や技法を学ぶ人々への教科書として、また、これからの海の社会の安全を支える人々への指針書として利用されることを期待して執筆した。(著者)



本書の内容

序 章 (基盤安全から予防安全へ/海の世界の安全の実践/リスクアナリシスは安全管理の実践手法)

第一編 海事社会の変革と次世代海技者

第一章 海運先進国への途 (かわらないもの/か
運企業は国際的バトンリレー/海運先進国として
第二章 次世代海技者に託される使命 (日本人船
度な付加価値を持つ日本人船員/ボスウイング
ボスウイングス能力の第二翼)

第二編 安全管理の方法

第一章 「安全」「管理」 (安全という用語/管理
第二章 管理の哲学 (安全管理は自発的/安全管
理の根幹/安全管理の推進/科学的技法に基づく
第三章 安全管理の手順 (リスクアナリシスの概
シスの手順/リスクアナリシスにおける科学的技
第四章 安全管理の実践例 (IMOにおけるPSA手
通の安全管理)

第三編 安全管理の技法

第一章 操船リスクアナリシスの実践 (操船リス
段に必要な技法)
第二章 安全管理のテクノロジーⅠ (危険の種を洗い
Tree Analysis (FTA) による分析技法/M-SHE
析技法/M-SHEL分析の実践/事故防止に向け
の総括/対策実施へのリコメンデーション/M-S
第三章 安全管理のテクノロジーⅡ (危険の芽を
ザードマネジメント/エラーマネジメント/スキ
第四章 安全管理のテクノロジーⅢ (危険度レベル
鑑泊中における走錯危険度の推定/岸壁係留中
危険度の推定/バースへのアプローチ操船中にお
危険度の推定/寄り脚調整ミスに伴う岸壁への
/制約水域・転換水域における操船困難度の推
モデルの適用/乗り揚げ・衝突事故危険度の推定

ご注文の際は、この注文書に必要事項をご記入の上、最寄りの書店にお申込み
直接当社宛にご注文の場合は、FAXまたは郵便にてお送り下さい。また当社ホー

ISBN978-4-425-35321-7 C305

注
文
票

海の安全管理学

定価2,520円(5%税込)

—操船リスクアナリシス・予防安全の科学的技法—

発送費390円

ご住所・お名前
(〒)

(株)成山堂書店 〒160-0012 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル Tel:03-3557-5851 Fax:03-3557-5
E-mail:order@seizando.co.jp(注文専用) URL:http://www.seizando.co.jp

本書を推薦します (順不同・敬称略)



海運先進国の海技者
が持つべき理念

東京大学名誉教授
小山 健夫

この10年余りの間、国内では大学改革、国際的にはIAMU(国際海事大学連合)の設立等、船員教育においても大きな動きがあった。旧神戸商船大学を代表とする主要メンバーとして、井上欣三先生は海運先進国の海技者にはボスウイングス能力とリスクマネジメントによる科学的



海事社会の安全に
つながる一冊

日本水先人会連合会会長
芦見 信孝

水先人は、プロの操船者として、業務の安全かつ確実な遂行を使命としていることより日頃から自己研鑽に努め、水先人会毎に安全レベルの向上に励み、また日本水先人会連合会では、毎年、海難事例研究・BRM訓練を中心とした安全研修を実施して、安全に対する意識をリフレッシュして「予防安全の担い手」として、業務に臨んでいます。



次世代
のための

(社)日本船主協会
森本 靖

平成19年の海の日に「海運基本法」が制定され、我が国の海運の重要性が再認識された。この機会に、海上と陸上の安全を支える人材の育成が求められ、国際競争という市場

[illegible]